

## XI. 装飾音

表 1 1

	::	トリル [It. trillo; F. cadence,tremblement; G. Triller; Sp. trino]
	:: ::	前打音、倚音 (アポジャトゥーラ) [It. Appoggiatura; F. port de voix; G. Vorschlag; Sp .apoyadura]
	::	短い前打音 (以前の名前は装飾音符)
	::	音の間に置かれたターン [It.fioritura; F.double,cadence,double cadence; G.Doppelschlag; Sp.grupito]
	:: ::	音の上や下に置かれたターン
	:: ::	音の間に置かれた上下逆のターン
	:: :: ::	音の上や下にある上下逆のターン
	::	装飾音の下方に変化を与える臨時記号の前につける  例    :: :: ::    :: :: ::
	:: ::	短いトリル
	:: ::	長く伸ばされた短いトリル、顫音、プラルトリラー
	:: :: ::	モルデント
	:: :: ::	長く伸ばされたモルデント
	:: ::	上へのアルペジオ
	:: :: ::	2つ以上の譜表を通しての上行のアルペジオ
	:: :: ::	下へのアルペジオ
	:: :: :: ::	2つ以上の譜表を通しての下行アルペジオ
	:: :: :: :: ::	顫音 (トリル)

### 1 1 - 1

装飾音は、それが付いている音符や音程の前に記す。これらの音の前には、音列記号は必要ない。

### 1 1 - 2

表 1 1 では、分かり易くする為に、装飾音の名前を数カ国の言葉で著した。点字記号は、本書の墨字版に出ている墨字の記号を、参照している。演奏者は多様な可能性に注意すべきであるし、点訳者は、墨字に含まれる意味や演奏に関してのすべての情報を、記すべきである。

バロック時代とその後の何年間の間、いろいろな作曲家が同じ装飾音に別々の名前を付けたり、違う装飾音に同じ名前が付けられて、演奏の細部を明確にする同意が殆どない。

例えば“ニューグローブ” \*では、トリル (2・3・5 の点) の墨字の記号について、一つ一つ、その“使い方と出所”をつけた、次のような定義を表している。

\* 音楽と音楽家に関するニューグローブ辞典 第13巻 P. 863

(*The New Grove dictionary of music and musicians*)

(London : MacMillan Press Limited, 1980 年)

(a) トリル ; 17世紀以来フランス、ドイツで広く使われている :

正しい使い方

(b) ダブルモルデント ; ルーリエ

(c) 前打音のついた下方のモルデント ; ? ロック、パーセル

(d) 用意されたトリル ; ラフィラール

(e) 上行するトリル ; ゴットリーブ・ムファット

(f) ビブラート ; メース

(g) トレモロ ; ラフィラール

XI 章でこれから示す各例は、“ニューグローブ” に示された最初の (a) を説明している

### 1 1 - 3

∴ の記号については、たいていの演奏者がトリルという意味にとるであろうが、演奏の仕方は、テンポや音楽の様式や他の要素によって、違ったものになってくる。墨字の記号では、トリルに前打音を付けるとか、ターンで終わるかは示されていない。演奏者は適切であるならば、これらの特色を付け加えて演奏することができる。







(b)

11-13

トリルは通常、墨字においては“tr”という文字や、ギザギザの波線によって示される。2つか3つのギザギザの非常に短い波線は、初期のいくつかの点訳手引き書では、上方モルデントと呼ばれていた。現在では、その名前は“不正使用”と考えられている。この装飾音のよく使われる名前は、トリルである。これは2・3・5の点のような長く続くトリルではない。これは上方補助音を1度か2度使い、すばやく演奏される。

例 11-13

11-14

∴ の記号は、長く伸ばされた短いトリルか、短い顫音を示す。すべての装飾音のように、正確な速さとリズムの組み合わせは、作曲者と作曲された時代を考えた演奏者の解釈によって、異なってくる。

11-15

墨字のモルデント記号は、墨字の短いトリルに短い縦や斜めの線が入ったものと同じである。モルデントの演奏は、(a)のように下方補助音が1, 2回演奏される。長く伸ばされたモルデントの場合は、(b)のように下方補助音がもう少し回数を多く演奏される。

例 11-15

(a)



